

農繁期 レポート

令和7年 9月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

高温で生育も早く初めて8月に稲刈りを始めました。お盆以降から徐々に雨がが増えて田んぼに水が溜まり作業が難航するかと思いましたが、中干しがしっかり出来て落水時期も適切でしたので水がある割には硬い田んぼで稲刈りができました。

9-10月の作業内容等

1. 稲刈り

稲刈りは早すぎると未熟粒が多くなり、収穫量が減ります。反対に遅くなると収穫量が増えますが、籾が熟れすぎて、倒伏したり品質や食味が低下します。なので、適期には暗くなってからもやる時があります。



2. 脱穀

現代の稲刈りはコンバインで脱穀(籾を穂から取り外す作業)までやります。コンバインのタンクが籾でいっぱいになったら、軽トラックなどに載せたトン袋に籾を移し替え、乾燥機や籾摺り機がある作業場まで移動します。



3. 乾燥

収穫直後の籾はそのままだと水分が多く、非常に変質しやすいので、乾燥機で水分量を調整します。目安としては14~14.5%にします。現代では乾燥機が進化しているので、急激に乾燥させることもないです。



4. 籾摺り・玄米選別

籾からもみ殻を取り除き、「玄米」にします。くず米(着色粒や小さい米)を選び分けて整粒を30kg袋やフレコンバッグに詰めて農産物規格にします。取り除かれたくず米は味噌などの醸造原料にもなります。

